

農業者の支援（スマート農業推進事業費補助金 等）

アナ： 「市長が語る 2019 三島」第 18 回の今日は、「農業者の支援」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願いします。

市長： よろしく申し上げます。

アナ： 三島市は農業の盛んな地域、美味しいお野菜の産地というイメージがあります。

市長： そうですね。三島市は平坦地では稲作やイチゴ・トマトなどの施設園芸が盛んです。また、箱根西麓地区の丘陵地では、露地野菜を中心に「箱根西麓三島野菜」として、ブランド化を進めており、三島市と JA 三島函南、農業者と連携した農業振興に取り組んでいます。

アナ： 農業な盛んな地域だけに、いろいろな支援策があるかと思われそうですが、具体的にどのような「農業者の支援」があるのでしょうか？

市長： まず、なぜ「農業者の支援」が大切なのかについてですが、全国的に農業においても、高齢化やそれに伴う労働力不足が大きな課題となっています。

このような中、生産量を維持し、産地を守っていくためには「農業者の支援」は重要なものとなっています。

具体的には、今年度新たな支援として、スマート農業を推進する JA 三島函南に対し「スマート農業推進事業費補助金」を交付します。

アナ： 農業分野においても、デジタル化が進んでいるということですね。テレビで無人の大型トラクターなど見たことがあります。三島市の農家さんでは、どのようなスマート農業を取り入れているのですか？

市長： 三島市のイチゴやトマトなどの施設園芸農家では、環境モニタリングシステムを取り入れることを推進しています。

これは栽培施設内外に環境センサーを設置し、温度や湿度、CO2 濃度などを環境モニタリング装置で、24 時間計測しデータを蓄積します。スマートフォン等でデータを確認でき、データを「見える化」して分析することができるんですね。

分析をもとに、作物にとって最適な生育環境を整えることができるため、高品質な農産物の生産や収量が増え、所得向上に繋がると考えてます。

アナ： 農家さんの経験や勘だけではなく、客観的なデータから作物にとって一番良い環境を整えることができるんですね。それはすごいことですよ。

市長： さらに驚くことに、センサーが環境状況を感知して、自動で窓の開閉なども行い、生育環境を整えてくれるんですね。このため、農家の労力は著しく省力化されますが、「見える化」したデータを分析し読み解くために、農家も勉強が必要です。JA 三島函南では、専門技術者を招いてデータ分析のための研修事業を実施しています。

アナ： なるほど。農業も自動化が進んでいる様子がわかりました。他にも取り組みは

ありますか？

市長： JA 三島函南では、米農家や馬鈴薯農家の省力化に向け、この春、マルチローター（ドローン）利用組合を立ち上げました。先日、箱根西麓地域にある三島馬鈴薯の圃場においてドローンを活用した農薬散布を実施したところです。通常は、人の手で2時間近くかかる農薬散布がわずか10分ほどで可能となりました。急傾斜地の箱根西麓地域でのドローン活用の効果は大きく、時間だけでなく、体への負担軽減にも大きく繋がります。今は、水稲と馬鈴薯のみでの散布を考えていますが、今後は対象となる作物等を増やす方針と聞いております。

アナ： ドローンで農薬散布ができるんですね。約1/10に時間短縮されることは素晴らしいですね。

お話を聞いて、行政と農協がタッグを組んで農家の支援を行い、産地の維持に取り組んでいる様子がよくわかりました。

美味しい新鮮な野菜が、すぐ近くで生産され、食べることができることができるこの三島は、食に恵まれた良い街だなと感じますし、その背景に皆さんのご努力があることがわかりました。今日は貴重なお話をありがとうございました。

市長： ありがとうございました。